

令和6年度 星槎大学・大学院学位記授与式

学長式辞

横浜会場では、先週の土曜日に久しぶりに雪が舞いましたが、徐々に冬の寒さも遠のき、桜のつぼみに春の訪れが感じられる季節になりました。海外からのご参加の修了生、北は北海道から南は沖縄まで、ご参加の卒業生の皆さまの地域では、春の訪れはいかがでしょうか。

本日ここに、令和6年度星槎大学・大学院学位記授与式を挙げるに当たり、学位取得者の皆さま、並びにご家族、関係者の皆さま方に、心よりお慶び申し上げます。おめでとうございます。

本年度、本学で学位を取得されました方は、共生科学部 169 名、大学院教育学研究科修士課程 25 名、同 博士課程 1 名、大学院教育実践研究科専門職学位課程 19 名です。

星槎大学は、「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる。」という建学の精神に基づいて、人と人、そして人と自然が共生する社会の創造に貢献することを目的とし、「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」という共生の考え方を掲げています。

皆さん方は、Zoom や会場でのスクーリングで、共生の理念で結ばれた様々な科目を学び、ディスカッションして、自らの課題解決に取り組んできました。そうした成果をこれからの人生に生かすとともに共生社会の実現のために貢献して欲しいと願っています。

皆さん方は新聞やテレビの報道でご承知のように、2月28日、トランプアメリカ合衆国大統領とゼレンスキーウクライナ大統領がホワイトハウスで会談しました。最初は、和やかに話し合いがなされていましたが、ちょっとした言葉のやりとりの行き違いで、両首脳は激しい口論の末、話し合いは決裂し、予定されていた鉱物資源に関する協定書の署名や共同記者会見が中止になりました。お互いを尊重していれば、自然と発言内容が変わっていたのではと思っています。ロシアとウクライナの和平交渉への道筋が見えなくなり、暗礁に乗り上げていますが、ゼレンスキー大統領からトランプ大統領へ書簡が届き、関係修復の兆しがあるようにも感じましたが予断を許さない状況だと思います。

いずれにしても、ロシアによるウクライナ侵攻に始まった戦争により、双方、多くのかげがえのない命が失われ、大変憂慮すべき状況であり、共生の理念とは程遠い状況です。一刻も早く停戦し、平和が訪れることを願っています。

皆さんは、星槎大学並びに大学院で、それぞれ自ら主体的に学修し、学位を取得されました。平日にはお仕事や勉学に励みつつ、土日にはスクーリングに参加したりして、休みもない状況でした。また、科目のレポートの締め切りが迫っているのに次のスクーリングが始まり、またレポート課題が上乘せされる状況でした。学部の卒業生は共生研究や卒業論文で課題に取り組みました。大学院の修了生は、教育学研究科修士課程、博士課程、教育実践研究科専門職学位課程、それぞれにおいて、現場の課題に向き合い、課題解決に向けて、どのようにオリジナリティを出して世に問うか？説得力のある論文を書くことの大変さを実感したことでしょう。「ああすれば良かった」とか「もう少し見通しをもってアンケート調査すればよかった」などと、また新たな課題が出てきたことでしょう。卒業や修了はこれで終わりではありません。新たな課題解決に向けたスタートです。

卒業生、修了生の皆さま方が星槎の共生の考え方に自信をもって、それぞれのお立場で、ご活躍してほしいと願っています。星槎大学、大学院での学びは、必ず皆様方の役に立つものと確信しています。

新たな門出に吉田松陰の“至誠通天”という言葉を送りたいと思います。ことに当たって真心で誠心誠意をもって臨めば、必ず道は開かれます。皆さんのご活躍を期待しています。

卒業生、修了生の皆さん。おめでとうございます。

令和7年3月15日
星槎大学学長 西村哲雄